

OSFだより

第96号 2009 (H21) 年6月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

かねも こと 金持ち国オランダ

会長 岡本 正

これは今日現在のことでなく、500年前の話だ。さらに国全体のことでもなく、国民一人一人のことだ。

私も戦前は日本国の考えに従って、国がよくなるのは富国強兵が一番と考えていた。国土は広く、人口は多く、軍備は充実することが善と信じていた。

これは私ひとりの考えではなく、当時は世界中の人々の大半は同じ考えであった。大国はより大きな国になることを願い、少しでも多くの土地、人々を支配しようと躍起になっていた。日本も愚かにもその野望にしがみつき、大きな間違いを犯してしまった。

以前にも巻頭文に書いたことがあるが「国民の豊かさの国際比較」という調査がある。2008年の調査によると、1位はルクセンブルクで、以下ノルウェー、スウェーデンと人口1千万以下の国々が続く。上位に大国はほとんど入っていない。

静かに反省してみると、国民の一人一人が幸福に、安全に、自由に生活することが一番大切であって、国土が広く、人口が多いことは国民の幸せには関係がない。むしろ21世紀ではマイナスになるのではないだろうか。

今から、500年ほど前を歴史上、「大航海時代」という。この時代から太平洋沿岸の国々が歴史の上に登場してくる。当時活躍した国はスペイン・ポルトガル(主として南米)、オランダで、次にイギリス・フランス(主として北米)が出てくる。

その頃、東アジアでもっとも勢力を持っていたのが、オランダだ。500年近い昔、1隻の船が九州の大分県にたどり着いた。オランダが東アジアを目指して5隻の船を出した。目的を達したのは1隻で、ほかは途中難破して沈んでしまった。

その当時は、スエズ運河のない時代で、アフリカの南端を回って何年もかけ、ようやく極東へたどり着いた。

それから、400年間オランダ1国が、日本貿易を独占して巨額の富を得た。同じ頃インドネシアを植民地として、経済的にも完全に支配し富を独占した。

皆さん、ガソリンスタンドでシェル石油の貝印のマークを見たことがありますか。シェルとは貝の意味で、もともとオランダの企業だ。オランダがインドネシアから最初にヨーロッパに輸入したのが美しい貝殻だ。ヨーロッパの女性に装身具(ブローチ等)として高く売れた。次に輸入したのが石油だ。

まだ、中近東から石油が発見されていない時代で、オランダは世界の石油王として巨万の富を得た。オランダは世界一の金持ち国で、アムステルダムには世界の富が集まった。人々は競って自分の肖像画を画家に書かせて、写真の代わりとした。もっとも有名な作品の一つがレンブラントの「夜警」だろう。

私の言いたいことは二つ。第一は、人々が自由に動けて幸福になるには小さな国のほうがいい。

第二はアジア人の反省だ。何千万人の人口のインドネシアが人口150万人の小国オランダになぜ、300年以上の長期にわたって植民地支配を受けたのか。

インドも同じことで、大国であるはずのインドが4百年近くイギリスに支配されたのはなぜか。皆さん、名映画「ガンジー」を観ましたか。インド独立の父、ガンジーの独立運動の物語だ。彼が一番苦労したのは、イスラム、ヒンズーの融和だった。人口が多いと問題も多くなる。

私は自分の考えが正しいと主張するほどの自信はない。しかし、どう考えても国土は小さく、人口の少ない国のほうが国民は幸福ではなからうか。ナチスに虐殺されたユダヤ人の少女の「アンネの日記」を読んでも、オランダ人はユダヤ人にやさしかった。

オランダの女王は今日でも外出に電車を利用なさる由。平和な国、精神的にも経済的にも優秀な国。うらやましい。国は小さいほうがいい。

李 宗雯

中国（上海市）

千葉大学 医学薬学府総合薬品科学専攻

留学生生活を経験して、

自分で成長したと思えること



日本に初めて来たときの不安や目新しさは、まるでついこの間のような気がするが、あっという間にもう二年間がたちました。振りかえると、いろいろ思い出が蘇ります。

この留学の二年間、多くの時間を研究室で過ごしました。いくつかの実験を同時にやることが多いですが、適切に時間を管理しないとうまく実験ができないと思います。最初初めの時によくきりきり舞いました。段々研究室に慣れてきて、うまく行くようになりました。毎朝9時に研究室の席に着いたら、その日の予定をまとめて、実験の手順も書きあげます。反応の待ち時間で、次の実験の準備をします。帰るまでに、実験メモを書く時間を残して一日やったことを記録します。そのように段取りを工夫することで、効率をあげることができます。

日本に来る前、ずっと両親と一緒に暮らしていたので、生活の面でいつも母に面倒を見てもらっていました。日本に来てから、いろんなことを自分でやらなければならないになりました。以前、自己管理などということは考えるべきことだとは思っていませんでした。

規則正しい睡眠と毎日のご飯。簡単なようでも、最初はけっこう大変でした。今の私は自分で料理をする時間がないですが、食事のバランスを考えてできるだけ野菜をよく食べています。家事をするのは面倒くさいですが、うまくするコツがあります。例えば、汚れた靴をすぐきれいにすれば、汚れが取れやすくなります。それ以外に、自分の気持ちも大切にします。疲れた時や落ち込んだ時に目の前の事をほうっておいて、気分転換します。外に行ったり友達に会ったりしてなんとか元気を取り戻します。リラックスした気分になれてこそ、前に進めます。

中国で「生活は経営するものだ」ということわざがありますが、聞いた時は何も感じなかったです。今よくそういう言葉を思い出します。留学することで、自分も一人暮らしの生活能力を持っているということに認識しました。困ったことに直面した時に冷静に考えて乗り越えます。これは一番成長したところだと思います。

ルアンラーツ・スリボン ラオス（ビエンチャン）

敬愛大学国際学部国際コミュニケーション学科

専攻科目の選考理由と

将来の目標について



私は高校生の時、大きな夢を持っていました。それは外国で学ぶことでした。すでに外国で学んだ人達にいろいろと聞いてみると、留学することは非常に大変なことだとわかりました。でも、私は本気で留学したいと思っていたので、大変なことはかまわなかったのです。あきらめずにいろいろな学校を探した結果、国際ことば学院をみつけました。そうして私の夢は実現しました。でも、留学できたことだけに満足せずに、未来について考えながら、勉強しなければいけません。もとより、将来のために大切なのは、希望と目的です。

私は将来に対して二つの夢を持っています。一つ目はラオスの外務省で働くことです。二つ目は自分の貿易会社を作ることです。でも一番やりたいのは外務省で働くことです。ですから、日本にある敬愛大学で国際関係、国際ビジネスの中の国際貿易を学んでいます。

できれば、大学で勉強するだけでなく、その二つの目的のために大学院で、いろいろな知識を深く研究したいと思っています。

しかし、現実と希望の差をなくするのは非常に大変だということも感じています。けれども、目的と希望と実際にできることをよく考えながら、希望を実現させたいと思っています。

もし、一つ目の目標が達成できなかつたら、二つ目の目標に進みたいと思います。そして、どちらに進むにしろ、大学院に入り、専門的な知識を身につけたいと思っています。

大学院で最新の技術、社会的な知識など、いろいろな学問を深く研究するため、大学院に入る夢を捨てないで、目標に向かって最後までがんばらなければいけないと思っています。そして学んだことを、自分の国に持って帰って役立てたいと思います。

セミ アブドレヒミ 中国(新疆ウイグル自治区)

東京電機大学 情報環境学部情報環境工学科

留学生生活を経験して

自分で成長したと思えること



日本に留学して自分で成長したと思うことは、夢を実現させるために、何があっても前向きに頑張っているようになったことです。

日本に留学することは、長い間の夢でした。いつか日本に留学して、自分の夢を実現させるために頑張って勉強しようと思っていました。でも、留学することはそんなに甘くなかった。異なる文化、言葉、生活習慣を越えられない壁のように感じました。生活費また学校費のために大量なお金が必要であり、昼間学校に通って、夜働かないといけなかった。辛いとき、なぜ日本に来たのだろう、こんな辛い日がいつまで続くのだろうと思い、最初は少し後ろ向きでした。

来日して一カ月後、学校が始まって生活は少し楽しくなりました。しかし、言葉があまりわからなくて、精神的なプレッシャーがだんだん重くなりました。毎日、自分に何回も「どうして自国で日本語の勉強をもう少し頑張れなかったのだろう」と聞きました。問いが問いを生み出して、「留学ということは、勉強だけではなく、異文化・習慣を理解する良いチャンスだ」と考えるようになりました。そして心で、この機会を通じて「日本を楽しむ、何事でも楽しみながら勉強をがんばろう」と課題を作りました。

留学して半年たち、私も普通の会話ができるようになりました。通学しながらアルバイトを始めて、たくさんの友達もできました。友達のお陰で日本の文化と習慣にだんだん馴染んできて留学生活も楽しくなりましたが、大学二年生の時体調を崩して、経済的に困難な状況におかれました。一時学校をやめることになり、両親からも帰国を進められました。自分で落ち込んでどうすれば良いかを迷っていたところ、友達や先生たちから「あなたならどんな困難でも乗り切れるよ」という励ましの言葉をたくさん頂きました。そして、一回諦める段階にきてしまった夢がいき延びて、去年の4月に復学しました。

日本に留学して6年間、長かったように感じますが、短かったと思います。この6年間楽しい事も、辛い事もたくさんありました。大学の勉強よりも社会で習ったものが多くなり、留学生活は人を育ててくれるとても良いチャンスだということを確認しました。

この6年間は、私の人生の中で、私を一番成長させてくれた6年間でした。日本に留学してよかったと感じさせた6年間でした。

今後、私の人生で革命的な変更を起こしたこの6年間の経験を生かして、自分を人間的・学問的面で成長させていきたいと思っています。

金正弼 韓国(ソウル市)

千葉大学 工学部共生応用化学科

留学生生活を経験して

自分で成長したと思えること



私は2004年10月に日本に参りまして、日本語学校に入学しました。日本語学校で1年半、日本語を学びながら大学を目標にし受験勉強をしました。それで2006年千葉大学に入学して、今年4月に触媒を扱っている研究室に所属される予定です。

私が日本に来て成長したことに対しては、生活力を持つようになったこと、日本語が話せるようになったこと、そして色々な国から来た留学生達との交流会を通しての異文化の経験などをあげられますが、一番成長したことは、やはり最も大きな失敗をしたことから申し上げたいです。

私は人とのつながりをすごく大切にしており、真の絆を持つ人間関係にこだわってきました。それで、心と心がつながっていれば何でも素直に言ったほうが良いと信じて生きてきました。

しかし、私は日本に来て初めて友達になったと思った

人を傷つけたのです。留学して来てできた韓国人の友達の紹介で知り合いになったため、私はすぐ仲良くなれると思いました。そんなある日、仲良くなったと思った私はその人に自分の考え通りに強くアドバイスをしました。しかし、その人は私のアドバイスに傷ついたようで、その日から私はその人の人生にいない人になりました。相手を傷つけた分、自分も傷つきトラウマにもなりましたが、今はこの失敗から得た教訓に感謝しています。私はこの失敗から相手の立場になり相手のことをよく考え、言ったり行動したりするようになりました。意見を言う時は正直に言いますが、相手を理解してから言うようになりました。それで今は周りの人に私のやり方や考え方を押し付けるのではなく、相手の意見を聞いて相手と話すようになったのです。相手の立場に立つことは大変難しいことですが、これからも努力し、社会に出て働く時も心がけたいと思っています。

トピックスTopics!

ご家族来日

- ◎ 4月16日、パイン君(会館生、ミャンマー)のお母さんとお姉さんが来日、一ヶ月間会館に滞在した。久しぶりの対面で、パイン君は大満足、会館生も一生懸命サービスしてくれた。



けっこんしました

- ◎ 5月1日、李暢さん(会館生H18、中国)が故郷の瀋陽で結婚式を挙げた。嬉しさイッパイの花嫁さんのビデオがとどいた。ほんとうにオメデトウ!!
いつまでもお幸せに!!

GWの間、多くの会館生OBが訪れてくれた。みんな久しぶりに会うと実家に帰った気分になって楽しいおしゃべりが続く。相変わらず賑やかなこと。

- ◎ 5月28日、倪悦勇さん(奨学生H17、中国)が顔を出してくれた。転職して大阪に赴任するようだ。大阪に財団の仲間がまた一人増えて心強い。新しい職場、新しい土地、大変だろうが頑張る!!



奨学生旅行

- ◎ 5月16日～17日、奨学生一泊旅行

今年は千葉北部方面(成田、銚子方面)に行った。

今にも雨が落ちてきそうな空模様がずっと続き、銚子の風の強さを体験してしまった旅行だったが、ゲームやカラオケを楽しんだり、太平洋の波と遊んだり楽しい旅だった。



OB消息

- ◎ 5月7日、マイさん(会館生H18、ベトナム)が長期出張で来日した。11月まで日本にいるとのこと。しばらく会わない間に立派な社会人になっていた。

- ◎ 5月18日、朝鴻さん(奨学生H9、中国)夫妻が来団してくれた。彼は新進気鋭の画家として、中国と日本をまたにかけて活躍している。将来がいつそう楽しみだ。

- ◎ 5月29日、胡劍飛さん(奨学生H6、中国)が久しぶりに来団してくれた。彼は日中貿易の仕事で、日中経済発展のためにがんばっている。すっかり社会人としての貫禄がついてきた。



役員会開催

- ◎ 6月10日、財団の役員会開催。会終了後、お世話になっている役員の方々と、留学生の交流会が行なわれた。多くの学生が自国の手作り料理を作ってきてくれて、国際色豊かな楽しい集まりとなった。

